

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 12 月 2 日 (2021.12.2)

【公表番号】特表 2021-500138 (P2021-500138A)

【公表日】令和 3 年 1 月 7 日 (2021.1.7)

【年通号数】公開・登録公報 2021-001

【出願番号】特願 2020-522358 (P2020-522358)

【国際特許分類】

A 6 1 M 27/00 (2006.01)

A 6 1 F 13/00 (2006.01)

A 6 1 F 13/02 (2006.01)

A 6 1 L 15/32 (2006.01)

A 6 1 L 15/30 (2006.01)

A 6 1 L 15/18 (2006.01)

A 6 1 L 15/20 (2006.01)

A 6 1 L 15/26 (2006.01)

A 6 1 L 15/24 (2006.01)

A 6 1 L 15/28 (2006.01)

A 6 1 L 15/38 (2006.01)

A 6 1 L 15/40 (2006.01)

A 6 1 L 15/44 (2006.01)

A 6 1 L 15/42 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 M 27/00

A 6 1 F 13/00 3 0 1 Z

A 6 1 F 13/02 A

A 6 1 L 15/32 1 0 0

A 6 1 L 15/30 1 0 0

A 6 1 L 15/18 1 0 0

A 6 1 L 15/20 1 0 0

A 6 1 L 15/26 1 0 0

A 6 1 L 15/24 1 0 0

A 6 1 L 15/28 1 0 0

A 6 1 L 15/38 1 0 0

A 6 1 L 15/40 1 0 0

A 6 1 L 15/44 1 0 0

A 6 1 L 15/42 3 1 0

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 10 月 18 日 (2021.10.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

創傷包帯において、
複数の穿孔を定義する壁を有する接触層と、

ポリマーと、少なくとも１つの創傷清拭剤と、を有する創傷清拭マトリックスであって、前記接触層に動作自在に結合された創傷清拭マトリックスと、を有することを特徴とする包帯。

【請求項２】

請求項１に記載の創傷包帯において、前記創傷清拭マトリックスは、前記接触層の表面の少なくとも一部分上の被覆であることを特徴とする創傷包帯。

【請求項３】

請求項１又は２に記載の創傷包帯において、前記創傷清拭マトリックスは、前記接触層の実質的に表面全体上の被覆であることを特徴とする創傷包帯。

【請求項４】

請求項１乃至３の何れか一項に記載の創傷包帯において、前記複数の穿孔の少なくとも一部分は、前記創傷清拭マトリックスによってカバーされてはいないことを特徴とする創傷包帯。

【請求項５】

請求項１乃至４の何れか一項に記載の創傷包帯において、前記創傷清拭マトリックスは、前記複数の穿孔の少なくとも一部分において存在していることを特徴とする創傷包帯。

【請求項６】

請求項１乃至５の何れか一項に記載の創傷包帯において、前記創傷清拭マトリックスは、前記接触層から少なくとも部分的に除去可能であることを特徴とする創傷包帯。

【請求項７】

請求項１乃至６の何れか一項に記載の創傷包帯において、前記創傷清拭マトリックスは、約２．０～約１０のｐＨを有することを特徴とする創傷包帯。

【請求項８】

請求項１乃至７の何れか一項に記載の創傷包帯において、前記創傷清拭マトリックスは、薄膜の形態を有することを特徴とする創傷包帯。

【請求項９】

請求項１乃至８の何れか一項に記載の創傷包帯において、前記創傷清拭マトリックスの少なくとも約１０％は、約２～約１０のｐＨを有する水性溶液中において溶解可能であることを特徴とする創傷包帯。

【請求項１０】

請求項１乃至９の何れか一項に記載の創傷包帯において、前記創傷清拭マトリックスは、約１．０ｍｍ～約１０ｍｍの厚さを有することを特徴とする創傷包帯。

【請求項１１】

請求項１乃至１０の何れか一項に記載の創傷包帯において、前記創傷清拭マトリックスは、穿孔を有することを特徴とする創傷包帯。

【請求項１２】

請求項１乃至１１の何れか一項に記載の創傷包帯において、前記創傷清拭剤は、約２～１２のｐＨにおいて活性を有することを特徴とする創傷包帯。

【請求項１３】

請求項１乃至１２の何れか一項に記載の創傷包帯において、前記創傷清拭剤は、約０．２５ＵＳＰ単位～約１０００ＵＳＰ単位において前記創傷清拭マトリックス中に存在していることを特徴とする創傷包帯。

【請求項１４】

請求項１乃至１３の何れか一項に記載の創傷包帯において、前記創傷清拭剤は、パパイン、尿素、ストレプトキナーゼ、ストレプトドルナーゼ、トリプシン、コラゲナーゼ、フィブリノリジン、デオキシリボヌクレアーゼを有するフィブリノリジン、プロメライン、及びこれらの組合せから構成された群から選択されることを特徴とする創傷包帯。

【請求項１５】

請求項１乃至１４の何れか一項に記載の創傷包帯において、前記ポリマーは、多糖類、たんぱく質、野菜ガム、又はこれらの組合せであることを特徴とする創傷包帯。

【請求項 1 6】

請求項 1 乃至 1 5 の何れか一項に記載の創傷包帯において、前記創傷清拭マトリックスは、乾燥剤及び / 又は増粘剤を更に有することを特徴とする創傷包帯。

【請求項 1 7】

請求項 1 6 に記載の創傷包帯において、前記乾燥剤は、シリカゲル、ケイ酸マグネシウムアルミニウム、酸化カルシウム、硫酸カルシウム、スルホン酸塩、及びこれらの組合せから構成された群から選択されることを特徴とする創傷包帯。

【請求項 1 8】

請求項 1 6 に記載の創傷包帯において、前記増粘剤は、グリセロール、グリセリン、カルボマー、ポリエチレングリコール、及びこれらの組合せから構成された群から選択されることを特徴とする創傷包帯。

【請求項 1 9】

請求項 1 乃至 1 8 の何れか一項に記載の創傷包帯において、前記創傷清拭マトリックスは、酸化した再生セルロール（ORC）を更に有することを特徴とする創傷包帯。

【請求項 2 0】

請求項 1 乃至 1 9 の何れか一項に記載の創傷包帯において、前記複数の穿孔は、約 5 mm ~ 約 20 mm の平均直径を有することを特徴とする創傷包帯。

【請求項 2 1】

請求項 1 乃至 2 0 の何れか一項に記載の創傷包帯において、複数の穿孔は、アレイ内において存在していることを特徴とする創傷包帯。

【請求項 2 2】

請求項 1 乃至 2 1 の何れか一項に記載の創傷包帯において、前記穿孔の少なくとも一部分は、前記接触層の厚さ未満の深さを有することを特徴とする創傷包帯。

【請求項 2 3】

請求項 1 乃至 2 2 の何れか一項に記載の創傷包帯と、
前記接触層及び前記組織部位上において封止された環境を形成するよう適合されたカバーと、
を有することを特徴とする組織部位を創傷清拭するシステム。